

支えあいのまちづくり協議体（京橋地域）実施報告

中央区に住む方・働く方ができる支えあいの形について、身近な地域で話し合う「支えあいのまちづくり協議体（第2層協議体）」の令和3年度第1回目を、京橋地域で開催しました。

1 実施日

令和3年5月11日（火）14:00～15:30

2 出席者

日頃高齢者と関わる機会の多い地域住民、関係機関、生活支援コーディネーター 10名

3 内容

- ・新メンバーの紹介と出席者近況報告
- ・前回の振り返り（課題の共有）
- ・意見交換
 - ①本協議体における行動目標の設定について
 - ②行動目標の具体化について
 - ③今後の方向性について

4 出席者近況報告の要旨

実施している地域活動の情報共有（新型コロナワクチンの接種に伴う地域の反応など）や、コロナ禍において出てきた新たな課題（施設入所や入院に対し、面会の制限があることを理由に在宅での介護・看護を希望する人が増えたが、治療内容の擦り合わせなど家族が背負うものが大きくなった）などの話を伺った。

5 前回の振り返り

前回の協議体では、協議体における目的（ゴール）の階層化の図を参考に、本協議体として取り組むべき課題がどこに位置づけられるのかを協議した。また、見守りのためのマッチング方法として既存の社会資源の確認、活用方法を協議し、今ある情報をどうつかんでもらうのかといった課題が挙がったことを振り返った。

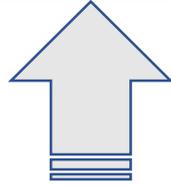
6 意見交換①本協議における行動目標の設定について

個々が考えてきた本協議体における「行動目標」をワークシートに記入し、全体で共有した。類似の行動目標ごとにグルーピングレタイトルを設定した結果、図1のようになった。

(図1)「本協議体における行動目標」

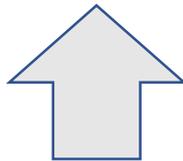
助けあいの仕組みづくり

- ✓ 「人と人がつながる」ための「ちょっとした助け合い」の実現
試み→検証→修正を繰り返しながら普及啓発する（PDCA サイクル）



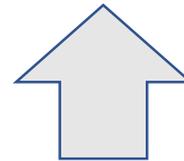
つながるきっかけづくり・情報発信

- ✓ バザーなど高齢者の興味ある催しをする（家から出るきっかけづくり）
- ✓ 町内会からのアプローチができないか考える
- ✓ 情報発信と同時に地域の社会資源を周知する
- ✓ 簡単動画など各団体に撮ってもらい、社会福祉協議会のホームページにて発信する
※活動内容などのテロップを入れ、3分程度の内容にまとめる
- ✓ 自組織と関わる人々に対しマッチングなどの既存の社会資源について情報提供する
- ✓ 自分が関わっているネットワークに、本協議体の活動について情報発信をする
（ポスターがあれば貼るなど）



日頃の関係づくり

- ✓ あいさつをする（顔なじみになる）

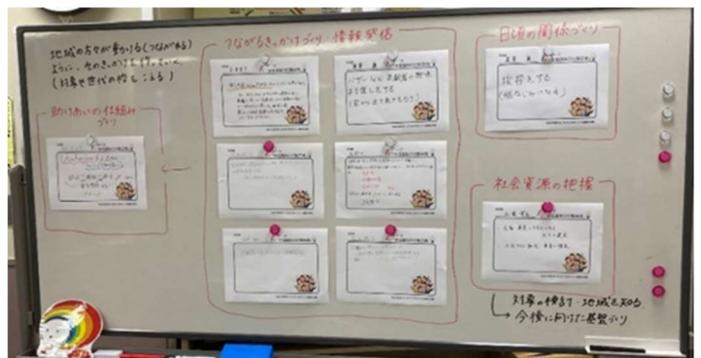


社会資源の把握

- ✓ 活動・事業のモデルとなるケースの選定
- ✓ 活用できる助成・事業の調査



ワークの様子



ワークの結果

7 意見交換②行動目標の具体化について

行動目標の具体化については、以下の意見が挙がった。

- ✓ 「協議体」としてやるのではなく、「自分たちができること」が大事なのではないか。
- ✓ 発信しても受け取る方がいないとなかなか難しいと思う。
- ✓ 高齢者本人でなくても、家族に情報が伝われば良いのではないか。
- ✓ 対象を限定すると、より分かりやすくなるのではないか。
- ✓ 住んでいる方たちが「やってみよう」と思ってもらえるような情報を、発信するのが良いと思う。
- ✓ モデル的に1つ取り組んでみて、地域に広げるきっかけづくりも行ってみるのも良いだろう。

8 意見交換③次回の方向性について

本日の議論を踏まえ、本協議体としては「地域とつながるきっかけづくりとして、地域の支えあいに関心の人などに向けて情報を発信する」という意見でまとまった。次回は情報発信の方法を検討するべく、個々に考えてくることとした。

9 今後のスケジュール

次回は令和3年7月中旬に開催予定。

SNS や紙媒体の活用など、「自分たちもやってみよう」「参加しよう」と思えるような情報発信の方法について検討するワークを行う。